

愛光会だより



第110号

桜島学園 和光学園 桜町学園 フレンドリーホームいいぐま
総合サポートセンター ラン おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい
小規模多機能ホーム あいわ

令和4年1月1日発行

発行・編集 社会福祉法人 愛光会
鹿屋市海道町729番地6 TEL 0994-46-2821
FAX 0994-46-2825
<http://www.aikohkai.com/>



明けましておめでとうございます。みなさんは富士山で年に2回見ることが
できる「ダイヤモンド富士」をご存じでしょうか？和光学園成人部の
日中活動で、桜島と共に見る「初日の出」をイメージして、この作品が完
成しました。2022年もよろしくお祈いします。

新しい年を迎えて

社会福祉法人愛光会 理事長 指宿 興一

明けましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年からの新型コロナウイルス感染症状況は、昨年八月に第五波の拡大ピーク時の感染者数二万五千人を超えて以後、減少に転じました。十二月二十日現在、全国の感染者は二百人、重症者は百人であります。このことは、国民の「三密回避対策」「マスク着用の徹底」と国の対策として「緊急事態宣言等」の強化もさることながら、昨年五月から本格的に始まった「新型コロナウイルス」の二回目の接種完了者が国民の七十パーセントを超えたことが最大の要因と言われています。

このような状況下にも関わらず愛光会事業に深いご理解と多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今年もよろしくお願ひします。

愛光会では、令和二年十二月「新型コロナウイルス予防対策委員会」を設置して、感染予防と対処対策を総合的にまとめた「新型コロナウイルス感染症予防対応ガイドライン」を策定しました。その「ガイドライン」に沿って基本的対応策である「三密回避の徹底」を図りながら、感染状況の把握とその対策を盛り込んできました。さらに濃厚接触者等の検査対象者及び陽性者等の隔離体制の整備、ワクチン接種への啓発と準備を法人として総合的にかつ一元的に推進してきました。お陰様で利用者様と役員とそのご家族に一人の感染者もなかったことは、皆様と関係機関の協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

しかし、アメリカ、中国、ヨーロッパの各国を中心として、世界的な経済活動が徐々に再開されてきていますが、これが本格的になれば、「感染拡大」に襲われる「リスク」が確実に増大します。「ワクチン接

種率」が六十パーセントを超えているイギリス、フランス、ドイツ等では、感染縮小から拡大に転じています。さらに昨年十一月下旬、南アフリカで確認された「オミクロン株」は従来の株より感染力が強く、ワクチンの効果が減少する傾向にあると報告されています。日本でも昨年十一月三十日、成田空港でアフリカのナミビアからの入国者一人が感染しました。

このように、この「新型コロナウイルス」は早急に、完全に撲滅することは困難な状況にあると言わざるを得ません。これからは新型コロナウイルス感染状況をコントロールしながら「経済活動等」を徐々に拡大して新型コロナウイルス以前の生活に戻したいものです。

改めて「手洗い、マスクの着用、三密の回避等」基本対策の徹底と「第三回目コロナワクチン」を接種することを皆様と一緒に努力しましょう。



新年のご挨拶

桜島学園 園長 野口 輝俊

あけましておめでとうございます。桜島学園では、こども三七名と職員(パート含む)三四名が、健康で元気に新年を迎えることができました。これも保護者の皆様、地域・学校、関係機関の方々など、日ごろから当園への温かいご支援とご協力のおかげであり、厚く御礼申し上げます。

さて、世界はコロナによる未曾有の影響を受け、学園も変革を求められた年であり、大きく変わったところを二つ紹介したいと思います。まず、子どもが集まる食堂の対策は大きな課題でした。現在、食堂は四方の小窓三か所を常時開放し、空気清浄機二台とサーキュレーター二台で、強力に換気を行っています。またテーブルには指導員手作りのアクリル板を設置し、座る場所は一席ずつあけ、着席後は毎回消毒を行うなど、とにかく思いつく限りの安全対策を行っています。次に、オンラインを積極的に導入した年でもありました。当園は鹿児島市側に地域小規模児童養護施設が二か所あり、その職員と顔を合わせる機会があまりありませんでした。オンラインを導入し

てからは、毎日の朝礼や引継ぎをパソコンの画面をとおして、話し合いができるようになりまし。また行事の打ち合わせでも、本園と小規模のこども・職員がオンラインで話し合いを行っています。研修もオンライン開催のものは積極的に参加し、コロナ禍になつてから、逆に研修参加の機会が増えてきました。緊急の打ち合わせやすぐに集まらない時など、オンラインは大きな力を発揮し、学園が大きく変わるきっかけとなったように思います。しかし、デメリットもあります。相手の感情や微妙なニュアンスが伝わりにくく、誤解が生じやすいという心配があります。コロナの状況次第になりますが、できるだけ顔を合わせて、相手の気持ちを考えながら、話し合うようにしていきたいと思ひます。

本年は寅年です。虎は子を非常に大事に守り育てるといふことから、「虎の子」という言葉があります。桜島学園では職員全体で、「虎の子」のこどもたちを大切にしながら、育てていきたいと思ひます。本年も宜しくお願ひ致します。

新年のご挨拶

和光学園 施設長 佐多 慶一

明けましておめでとうございます。

昨年中は、皆様方には格別なご理解とご協力を賜りまして心より感謝いたします。

また、利用者様及びご家族様には、この二年間、新型コロナウイルス感染症禍にあり、面会の自粛や行事の中止など、ご迷惑をおかけしているところです。職員も早い時期にワクチン接種を済ませ、徹底した自己管理、利用者様の支援に努めています。この間、いろいろな出来事を経験しながら、利用者様と共に私達職員も成長したような気がします。

さて現在、当施設の事業としては、児童を対象とした児童発達支援、放課後等デイサービス、障害児入所支援、成人を対象とした障害者入所支援を展開していますが、それぞれ課題を抱えています。なかでも障害児支援施設については、健全な発達の観点から、家庭的な雰囲気作りに努めています。本来は施設の小規模化、地域生活への推進、グループホームの活用など検討すべきかと思えます。しかしながら、近年障がいが重度化及び多様化傾向にある

ことを考えれば、なかなか難しいところ。今後は、愛着・知的・発達障害等の重複障がい児など

ケアニーズが高い児童への対応ができる発達支援機能の充実を高めるため、高度な専門的対応が必要になることから、福祉と医療の複合的な施設として、人員や人材の確保が必要になると思えます。また、十八歳以上の入所者に対応するため、当施設としては、児者一貫体制への転換を抜本的に考える必要も感じます。いろいろな課題を抱えています。職員一丸となり、高度かつ利用者様が満足するサービスを目指し頑張っております。

最後に新型コロナウイルス禍にあり、窮屈な思いにありますが、感染症には、必ず終わりがあると聞いています。改めてこのコロナ禍にあり大事なことは、「待つ」ことだと思えます。私たち職員は、来たるべき時に備え、力を蓄えるために、いろいろな書籍や他者との交流などから「学ぶ」ことに努めます。

今後とも皆様方の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶 (医療用テントでの面会)

桜町学園 施設長 前原 昭子

明けましておめでとうございます。

旧年中は、新型コロナウイルスの影響の中、皆様方には、様々なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このコロナ禍において、面会や会議はオンラインで実施し、デジタル化が加速し、様々な感染防止のための対策を講じてまいりました。時代は常に変化しており、時代の波に取り残されないように、皆様のご協力をいただきながら、利用者様のより良い生活の質の向上を目指していきたいと考えております。

さて、桜町学園の面会につきましては、ガラス窓越し面会、オンライン面会等を実施していましたが、保護者の皆様方から、「私もワクチン接種をしましたが、面会はいつ頃からできるようになりますか。」との問合せが多数寄せられるようになりました。その様な中、千葉県のある特別養護老人ホームで医療用テントを活用して面会を実施している様子がテレビで放映され、

このテントの導入について、法人、施設内関係者、保護者

会様と協議を重ねましたところ、「是非、保護者会から寄贈させていただきたい。」との申し出があり、令和三年十月二十八日に医療用テントが届きました。保護者会の皆様には厚く御礼申し上げます。その旨、保護者様へ写真付きでお手紙を送付させていただきましたところ、早速、面会が実施されました。但し、面会方法につきましては、幾つかの約束事をお願いしています。その後、面会を実施された保護者様から、「テントでのビ

ニール越しではありましたが、一年半ぶりに本人の姿を直に見られ、ビニール越しに手と手を重ねることができ、感無量でした。私を忘れていたかもと心配でしたが、名前を言うてくれて、笑顔が見られて、本当に嬉しかった。」とのお便りを頂戴し、我々職員一同も感激し、今後も利用者様、保護者様の笑顔を多く引き出せるように、様々な工夫を重ねていこうと決意を新たにしました。

まだまだ、終息の見えないコロナ禍において多大なご迷惑をお掛けしますが、関係各位の皆様には何卒ご理解、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



医療用テントでの面会の様子

コロナ禍後の生活

フレンドリーホームいぐま 施設長 指宿 章子

令和四年、新春のお慶びを申し上げます。

コロナに明け暮れた令和三年も利用者様、職員共に無事に過ごすことができ、新たな年を迎えることができました。ご家族様のコロナ感染防止対策へのご理解、ご協力、誠に有り難うございました。お陰様にて誰一人コロナに感染することなく、命を失うことなく生き延びることができました。

市内でのクラスタ等報道を聞く度に肝を冷やししながら、職員への感染拡大地域への行動自粛に感謝と、利用者様と共に基本的な感染防止対策の徹底としてマスク着用、消毒、換気、距離を保ちながらの食事、活動参加の賜物と感謝致しております。ワクチン接種後感染も報道されており油断はできませんが、感染防止対策の徹底を継続しながら利用者様の健康とストレス軽減を図り、日々の活動を取り戻していきたいと考えております。

骨折等が多々見られましたが、園内にて朝夕のウォーキングを行う事で改善されてきています。コロナ禍後の生活において大きく変化した点は、人との関わりを極力抑え、教育面ではタブレット等を使用したオンライン授業、買い物はインターネットを利用した通販、葬儀は少人数での家族葬、会議・出張はZoomを利用するのリモートワーク会議等、大都会でも田舎生活でも変わりない、利便性の高い過ごし方が可能になってきています。

生活に必要な物が数日で届く生活が当たり前となり、生活を支えてきた一次産業、二次産業等、外国に頼ることでコロナ災害時、物品不足等が生じています。幸いにも地元には食料の肉、魚、野菜、米等、一次産業の地場でもあり、当事業所の就労継続B型事業所は地場産物の養牛、野菜作り等で、地域に貢献できていることは強みでもあります。何が起るか解らない世の中、備えあれば憂いなし、実行あるのみです。

新年のご挨拶

総合サポートセンターラン 施設長 松元 洋和

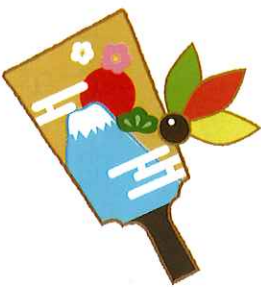
明けましておめでとうございます。昨年中は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言等に伴い、当事業所においても行事や面会、外出等を自粛していたいただきました。利用者様及びご家族様には、感染予防対策へのご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。引き続き、感染防止対策を行いながら良質なサービスを提供できるように努力してまいります。

さて、当事業所では現在、生活介護、居宅介護、共同生活援助、共生型サービス事業を展開しております。令和三年度はコロナ禍においても、利用者様の健康面や身体面等を考慮しながら充実した一日を過ごしていただくために、日中活動では午前午後のプログラムの充実を図っております。午前は講座活動やウォーキング等、様々な活動を通して、楽しみながら体を動かすことで上下肢機能強化や他者との交流により、ストレスの軽減を図れるように取り組んでおります。午後からは入浴支援や利用者様の希望する個別対応にも積極的に取り組んでおりま

す。共同生活援助では、外出を自粛していただくこともありますが、時期をみながら、ドラッグや誕生会、クリスマス会等の行事を通して、沢山の笑顔がみられております。また、職員においても日頃からの感染防止対策の為の行動自粛や基本的な感染予防対策の徹底によって、日々の活動を継続して提供することができ、本当に感謝しております。

最後に、まだ終息のみえないコロナ禍にありますが、当事業所は様々な工夫を重ねながら、これまで同様利用者様に安心安全かつ心豊かな生活の場を提供できるよう職員一同で取り組んでいく所存ですので、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

福祉総合相談支援センター あい 管理者 宮園 正志

明けましておめでとうござい
ます。謹んで新年の挨拶を申し
上げます。

昨年度は新型コロナの影響が
発端となり、新しい生活スタイ
ルが生まれた年でもありました。
ここで自然科学者ダーウィンの
進化論を一言。

「強いものや大きいものが生き
残るのではなく変化に適応でき
るものが生き残る」

これは生物界だけに通じる言
葉ではなく、私たち福祉界に
おきまして、今後の時代にう
まく適応するために変革が求め
られる時代への突入を意味する
ものであると私は理解していま
す。

変革を行うためには、現実や
制約から目をそらして理想や美
しいことだけを語ったり、容姿
を気にして自分をよくみせたり
することに埋没するようなこと
があつてはならないと思いま
す。そこには相当な苦労や努力
が伴うはず。

かつてのフランスの貴族・文
学者ラ・ロシュフコーの言葉に
「人間は余程他人に自分を偽装
することに慣れ、挙句の果ては

自身も偽装する」

「人はすべての地位で、みんな
にこのように思われたいと思
うとおりにならなければならない
と、外見を決め込んでいます。だ
から社会は仮面でしか成り立た
ない」

とあります。これはお互いの持
ち場に表面的折り合いをみつ
けること、綴り合せや綺麗事に染
まった「人脈という幻想」に辛
辣を込めた言葉であると思いま
す。

私自身にとって、まさに痛恨
の一撃になるくらい強烈な言葉
であります。

しかし、見方を変えたと相手
に対して自分を偽装したとこ
ろで、きつと自らの欠点や目の
前の課題から逃げることはでき
ないだろうと考えると、勇気づ
けの一撃になる言葉でもありま
す。

終わりになりますが、いろい
ろな人と話をしたり本を読ん
だりすることは自分の心を楽し
ませてくれるなあとと思う毎日
です。

本年もよろしくお願いいたし
ます。

「その人と何ができるか」

小規模多機能ホームあいわ 管理者 新地 拓哉

明けましておめでとうござ
います。令和二年十月に開設
致しました小規模多機能ホー
ムあいわですが、早いもので
一年と三カ月が経過しました。
開設時の登録者は四名でした
が、現在は二十四名程の方に
登録をいただいております。
これもひとえに皆様方のお力
添えのおかげと感謝しており
ます。今後ともご指導ご鞭撻
の程、宜しくお願い申し上げ
ます。

さて先日、小規模多機能型
サービスマスター等計画担当者研
修に参加させていただき、そ
の研修の講義の中で、「これか
らの支援は、その人に何がで
きるか。ではなく、その人と
何ができるか。」とのお話があ
りました。特に小規模多機能
型居宅介護のサービスマスターは、地
域との連携の上にならざるに
慣れた地域での生活を支え
るという目的があります。こ
れまで、登録者へ小規模多機
能のサービスマスターをいつ、どのく
らい提供できるかということ
ばかりを考えてしまい、地域
の中で地域の方々と共に生活

することを支えるという視点
が充分ではなかったと反省す
る機会となりました。高齢者
の方は地域で生活する上で、
サービスマスター以外にご家族・
ご近所さん・町内会の方・民
生委員さん・新聞屋さん・電
気屋さん・お店の方等、いろ
いろな方と関わりながら生活
しております。その関係性を
継続できるようにお手伝いを
行うのが小規模多機能の大切
な役割の一つです。実際には
認知症の方々への対応にご近
所さんが苦慮されていたり、
コロナの関係で地域の方々との
関係性が希薄になってしま
まつていたりすることもあり
ますが、可能な限り地域との
関係性を重視し、小規模多機
能の役割を果たせるように取
り組んでいきたいと思ってい
ます。

まだまだ至らぬ点も多いで
すがスタッフ一同、今後とも
宜しくお願い申し上げます。



各施設新職員の紹介



① ダイビング、旅行
② 美味しいものを食べている時



小規模多機能ホーム あいわ 非常勤介護従業者 南 文子

① ドライブ・買い物
② 美味しい食事を皆で楽しく食べている時



福祉総合相談支援センター あい介護支援専門員 村治 ゆきえ

① ゲームセン、ゲーム、フットサル
② 自分の趣味をしている時



和光学園調理員 坂元 健嗣

① 好きなこと
② 幸せを感じる時は？



① 料理すること
② 料理の動画をみている時



総合サポートセンター ラン 生活支援員 西中川 大志

① ライフに行くこと
② 寝ている時、お酒を飲んでいる時 (自宅で)



小規模多機能ホーム あいわ 非常勤介護従業者 薬原 みさと

① 旅行や買い物巡り
② 好きなイベントに参加やたくさん眠れた時



小規模多機能ホーム あいわ 作業療法士・介護従業者 平野 哲也

寄贈一覧

(R3.7.1~R3.11.30) ※順不同

桜島学園

- 長谷川 澄雄 様
- 佐藤食品工業有限公司 様
- 帖地 近行 様
- 牛込 あゆみ 様
- フードバンク 様
- 株式会社 MONARIO キャピタルフーズ 高田 愛来 様
- ふねま農園 船間 浩樹 様
- 株式会社ユーコーホールディングス ユーコーラッキー新屋敷店 様
- 神原 理行・桂 様
- 一般社団法人日本アイスクリーム協会 九州アイスクリーム協会 様
- 杉木 和子 様
- 堂園 哲也 様
- 竹之下 次雄 様
- 坪井 敏行 様
- ぎんちゃん 様
- 有限会社くすりの宮田 様
- 鹿児島県運動具小売商協同組合 合資会社宮原スポーツ 様



たくさんのご寄贈をいただきました。心から感謝いたします。

編集後記

あけましておめでとうござい
ます。
皆様におかれましては、お健
やかに新しい年をお迎えのこと
とお慶び申し上げます。
愛光会だより第一一〇号が出
来上がりましたのでお届け致し
ます。
今、コロナ禍で世界中の感染者
数が再び増加している傾向にある
中、日本では感染者数が二桁まで
減っていることは良い傾向だと思
います。コロナワクチンや感染症
対策を推進してきた成果であると
考えられます。減少している現状
がありますが、その状況に慢心せ
ずに、感染防止対策としてマスク
等の着用、不要不急の外出を控え
る、適度な換気を行う、ソーシャ
ルディスタンスを保つといった基
本的な感染防止対策を継続し、こ
のコロナ禍を乗り切っていきたい
と思います。
さらに利用者の皆様の笑顔が
あふれ、毎日がより楽しくなるよ
うな活動を提供していきたいと思
いますので今後とも宜しくお願
い致します。

編集員一同